

回答 町長

私が公約した、基本的な5つのテーマは、いずれも本町が抱える人口減少問題につながる面を有しているものと考えている。

人口減少対策は、総合戦略に掲げられている施策をはじめ、総合振興計画に沿った取り組みが、現在、終盤を迎えている状況にある。

住民生活について不可欠な施策を継続するという考えから、これまでの施策を活かしつつ、私にとって実質的に初年度となる令和5年度の町政の運営に、あたりたいと考えている。

昨年度から始まっている大人の島留学事業による若い人材の流入は、地域に新しい風を呼び込み、良い刺激となっていると伺っており、この事業で本町に来た島体験生から特定地域づくり事業協同組合への就職を決めた方が出ていることを、大変嬉しく思っている。

地域の魅力を肌で知った方に、その方に合った仕事マッチングできれば、交流から定住へとつなげることができるということを感じており、事業協同組合への支援や大人の島留学に加え、移住促進ツアーやUターン者定住サポートなど、外部人材を取り込み、定着を図る事業、またそこに向けた情報発信を重点事業として取り組んでいきたい。

新たな人口減少対策等への予算付け

は、既存事業の効果などを吟味しながら、新しい総合振興計画、また、総合戦略の策定の過程やご質問の後段であった、「話し合いの場」で寄せられるご意見を伺い、タイミングを見て行っていくかと思っております。

質問

前町長は、産業振興、社会資本整備等を積極的に進め、また、町財政の健全化にも努め、多大な実績を残した。一方、地域の課題である人口減少には歯止めがかからず、現在、あらゆる基幹産業において人材不足が顕著な状況である。

前町政の取り組みを継承しつつ「新たな挑戦」をするとしているが、町長が目指す「まちづくり」について、具体的にどのように描いているか。

回答 町長

「まちづくり」にかかる基本的な考え方については、一口にお答えするのは難しい質問だが、住民の皆さんが、様々なライフステージにおいて、この町で暮らす幸せや、喜びを実感し、その幸せや喜びを町に住む者同士で、あるいは町を訪れた方とも共有できる、そう言ったことが重要だと考えている。

住民が仕事や生活、趣味や子育てなどに充実した毎日を送り、生き生きと人々が暮らす地域は、訪れた人にもま

た魅力ある地域であるはずで、まさに現在の総合振興計画にある「人の集う島」につながっていくものと考えている。そこには、いわゆるハード、ソフト両面でバランスの取れた政策が必要であると言ふふうにも思っている。

また、「まちづくり」とは、行政だけではなく、議会の皆様、住民の皆様と一体となって取り組むものであり、その総力を結集したとしても、一朝一夕で成果が表れるものではないが、所信表明で申し上げた5つのテーマ、産業の振興や社会基盤の整備、医療など生活環境の整備、人材育成、人の流れの創出など、これを重層的に展開して、「笑顔あふれる元気なまちづくり」の実現に全力を尽くして行きたいと思っている。

質問

現在、本町の15集落は人口減少、少子高齢化に伴い、伝統、文化の維持や日常生活も含め地域ごとに様々な課題がある。

近年のコロナ禍にあって、町政懇談会も長く開催されず、町政への提言を聴く貴重な機会が少なくなっている。今後、地域の実情を良く知り、町民との対話の機会を重ね、町政運営の協力を得る方が重要であると考えるが所見を伺う。

回答 町長

私自身、議員が言われたとおり、Uターン者で将来の西ノ島のあり方や今後の施策を展開していくためにも、各界各層の声を多く伺って、施策の展開につなげて行きたいと考えている。

今後は、住民グループや各種団体など、柔軟に幅広い分野で、未来の西ノ島町のために色んな提案やアイデアを収集していくことを主眼に置いた「話し合いの場」をつくらせて行きたいと考えている。

また、地域での意見交換の場を設けることについては、各地区の意向も踏まえて考えて行きたい。





一員 上 哲 中 議

火葬場整備事業について

現在の火葬場は40年以上が経過しており、施設の老朽化と狭い駐車場に、火葬場までの急傾斜でカーブの多い狭い道路は、冬場、凍結するなど不便な点が多い。加えて、町民の高齢化、人口減少の進行により、自宅葬儀の大きさを遺族や地区の方が訴える声が増えてきている。

また、自宅できない場合も含め集会所やお寺での葬儀を余儀なくされる例もある。

近年、葬儀は、J Aで葬具の提供がされるようになったが、葬儀の段取り、手配、進行を親族や地区でこなさなければならぬ。

こうした状況の中で、令和3年度に「火葬場整備計画」を中期財政計画に計上した。令和5年度には基本計画の策定を行い、約2億7千万円の事業費で令和8年度に完成と言う事だが、この計画について次の3点を伺う。

質問

町長は、島外生活が長かったが、本

町の自宅葬については、どのように考えているか。

回答 町長

本町の葬儀に対する私の考えについては、私の経験上、島外でも都市部では、多くの場合、葬祭業者によって葬儀の運営が行われており、中山間地域では比較的地域色が残っているように感じている。

本町の葬儀については、亡くなられた方への地域への深い思いを察し、血縁、地縁の方々の協力のもと通夜から葬儀までを自宅で営まれることが、一般的であると認識している。

また、近年は、自宅が手狭であるなど使用ににくい状況であれば、地区の集会所や寺院での葬儀も少しずつ増えていると伺っている。

一昔前に比べれば、葬儀にかかる用品の準備等を、J A隠岐どうぜんが受けて頂くことにより、若干の負担は軽減されていると思っているが、議員の指摘のとおり、依然として遺族や親族、地域にかかる労力の負担が大きいことは、人口減少と高齢化が進む中での悩みと認識しており、葬儀に関する町民の意識も時代と共に変化しているものと考えている。

質問

基本計画は、どのような組織で検討

するのか。

回答 町長

現在、担当課において、基本計画業務の内容について精査をしているところである。5月中には、役場、議員、団体、有識者等で構成する検討組織を設けて、幅広く住民の意見を反映できるように進めたいと思っている。

質問

以前は「公設の斎場については、建設費用や採算面等により火葬場に葬儀の行えるような待合所等のスペースも含めて検討する。」との考え方が示されたが、海士町では葬儀場を建設前提で検討中と聞いている。

本町でも将来的に益々町外の遺族が多くなり、地元での葬儀の負担が増えていくことが予想される。自宅での葬儀についての、遺族、親族の負担を減らして、人生最後の儀式を悔いなく、執り行えるように、今回、家族葬程度を行える葬儀場の設置を提案する。

※本町の過去5年間の年間平均死亡者数は約60人。

回答 町長

議員の質問にあつた、海士町の現在の火葬場には、ロビーと待合室があるが、町民から意見のあつた簡易葬祭場としての利用が難しい状態にあること

から、新たに簡易葬祭場の建設に向かうと伺っている。

本町が新たに整備する火葬場については、兼ねて「火葬場建設にあたり、葬儀も行えるような待合室等のスペースも含めて検討する」とされた、従来の方針も踏まえ、基本計画策定にあたっては、議員の提案にある家族葬を行えるスペース等の設置についても検討したいと思っている。



輝 員 田 柴 議

公金詐欺事件について・官製談合防止法違反など疑われている状況について
公金詐欺事件について3つ伺う。

質問

公金詐欺事件に係る最新の調査状況等について

質問

預け金問題の調査状況について

回答 町長

「公金詐欺事件に係る最新の調査状況等について」と、「預け金問題の調査